

## 山崎 薫

(俳優・歌手、牛島小学校・東中学校卒業)

フジの花は両親や  
地元の人たちの優しさの  
象徴なんです

現在、私は舞台を中心に俳優として活動していますが、高校時代は芸大の音楽科を目指していました。音楽家の両親のもとで育ったため、自分も同じ道に進むのが当たり前だと思っていたんです。でも、実技試験を前にして、「このまま敷かれたレールの上を進むだけでいいんだろうか」と疑問に感じ、試験前日に「受験をやめる」と突然宣言したんです。今思うと遅い反抗期だったんですね。当然、親は大反対しました。泣きながら激しい言い合いになりましたが、最後に背中を押してくれたのも両親でした。

以前から興味があった演劇の道に進みたいと話すと、受験できる劇団を調べて教えてくれたんです。結果として、文学座の研究生になることができました。文学座や新国立劇場の演劇研修所で演技の基礎を学びながら、徐々に舞台上立つようになりました。

舞台の芝居には歌と違った面白さがあります。芝居は共同作業が

基本です。相手役と常に向き合い、その関係を深めていくと、想像もしなかった自分に出会うことがあります。また、芝居は、他人を演じているようですが、実は俳優の人間性や演技に対する姿勢など、その人の内面まで観客に見えてしまうものなんです。ですから、常に自分の内面を磨く努力を怠らないように努めています。

たとえば、花を見て美しいと感じるピュアな心を持っているかどうか、演技と無関係ではないんです。今回、表紙の撮影で久しぶりに「藤花園」を訪れたのですが、小学生の頃に花を見たときの感動が自分の中に蘇よみがえってくるのを感じて正直ホッとしました。そして、花を眺めながら、地元で応援してくれている人たちの顔を思い出していました。8年ほど前に私の後援会が地元で結成され、発足式でプレゼントされたのが藤娘の羽子板だったんです。

また、私の住む地域は、家庭でフジの花を育てていたり、小さな公園にも藤棚があったり、フジの季節に公演先から帰ってくると、甘い香りと可憐な花房に癒やされます。フジの花を見るたびに、私を育ててくれた両親や地元の人たちの優しさに包まれるようで、元気になれます。

フジの花を見ると、私のことを応援してくれている地元の人たちの笑顔が浮かんでくるんです。



1988年生まれ。浦和第一女子高等学校卒業後、文学座研究生を経て、2009年新国立劇場演劇研修所入所。栗山民也氏、鈴木裕美氏ら多くの演出作品に出演。2012年からワタナベエンターテインメント所属。歌手としても活躍中で、春日部市内各所や小中学校でコンサートを開催するなど地元密着型の活動にも力を注いでいる。

